

琉球大学学術リポジトリ

ベニョフスキ伯爵の『回想録と旅行記』の国際的比較：東欧人・日本人・琉球人たちの叙述をとおして

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: グレジユク, シモン, Gredzuk, Szymon メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44331

様式第13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	山城 新	
副査	豊見山和行	
副査	稲村 務	

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	██████████	学生氏名	グレジユク・シモン
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	山城 新
		副指導教員	豊見山和行・稲村 務
成績評価	学位論文	合格	
論文題目	ベニョフスキ伯爵の『回想録と旅行記』の国際的比較—東欧人・日本人・琉球人たちの叙述をとおして		
審査要旨	<p>平成31年1月25日に副査の統括のもとで学位論文審査を実施した。</p> <p>本博士論文は、18世紀を生きた東欧の探検家マウリツィ・アウグスト・ベニョフスキ伯爵の『回想録』について、特に日本と琉球訪問に関する記述内容についての文献学的研究である。第一章（序章）では研究方法と研究課題について説明し、第二章では英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、オランダ語、日本語で書かれた第一次史料ならびに先行研究を丹念に渉猟しながら相互比較検討している。第三章と第四章では、これまで「ほら吹き男爵」として伝説化されてきた『回想録』の中の記述やベニョフスキの自己像について、史料を基に史実と虚構を丹念に弁別した。加えて『回想録』出版後のベニョフスキ伝説の発展経緯をフィールドワークを踏まえて明らかにした。第五章においては、更に『回想録』の中の虚構性がベニョフスキ自身によって創られたものではなく、その出版過程において編者の役割も関与していたことを初めて示しつつ、本書が欧米において、それぞれの社会的・政治的・文化的文脈において様々に脚色されながら派生的二次創作を創り出していくプロセスをグローバルな観点で詳述した。</p> <p>本論文はベニョフスキ研究のもっとも詳細にして網羅的な最新の研究成果であるだけでなく、今後の琉球・日本、アジアと欧米のグローバルな交流史研究の発展にも益するところが大きく、高く評価すべきであると考えられる。</p> <p>以上をもって、学位論文審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。</p>		

様式第14号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	山城 新
副査	豊見山和行
副査	稲村 務



最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	■■■■■	学生氏名	シモン・グレジユク (Szymon Gredzuk)
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻		主指導教員	山城 新
		副指導教員	豊見山和行・稲村 務
成績評価	最終試験	(合格) 不合格	
結果 要 旨	<p>副査の統括のもと、平成31年2月2日に最終試験を実施した。提出された学位論文の題目は「ベニョフスキ伯爵の『回想録と旅行記』の国際的比較—東欧人・日本人・琉球人たちの叙述をとおして」である。</p> <p>試験では論文に関することを中心に関連する分野、受講した科目に関連する分野、発展的課題等についても質問した。加えて、論文の中で用いられている理論や用語の正確性や妥当性、『回想録』の中の記述内容についての考察の根拠、更にその他関連する専門知識や研究上の位置づけについて質問し、十分かつ的確に回答していた。併せて、本論文に関連する専門知識や本論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献があったことを確認した。</p> <p>更に、副査の統括の下で行った本審査委員会による最終試験では、申請のあった博士論文とこれに関連する授業科目等について、口頭による最終試験を行った。そこで交わされた質疑応答において、当該学生が学位に相応しい研究者としての能力および学識を十分に有していることを確認した。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は当該学生が学位の水準に達していると認め、最終試験に合格したと判断する。</p>		